

[シラス]

1. 経年経過及び平成19年1～2月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成11年の5,450トン进行ピークに減少傾向を示し、平成14、15年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後平成16年は3,507トン、平成17年は3,368トンと比較的好調に推移しましたが、平成18年は2,842トンと若干減少しました。

志布志湾海域では平成12年の1,407トン进行ピークに減少傾向を示し、平成14年は396トンまで減少しましたが、平成15年は842トン、平成16年は1,180トン、平成17年は1,147トンと増加傾向を示し、平成18年は1,444トンと好調に推移しました。

今期の西薩海域ではほとんど水揚げが無く、カタクチシラス主体に1.4トンの水揚げで、前年の8%、平年の5%と前年・平年を大きく下回り、低調に推移しました。志布志湾海域ではカタクチシラス主体に76.4トンの水揚げで、前年の201%、平年の270%となり、好調に推移しました。

2. 平成19年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域・志布志湾海域とも、前年並か前年を下回るものの平年を上回るでしょう。

(根拠)

カタクチイワシ親魚の来遊が、本年1月以降、北西薩海域を中心に好調に推移していること、本年3月に実施した卵稚仔調査結果から、カタクチイワシの卵や稚仔魚の分布が、近年では平均をやや上回る水準であったことなどから平年を上回ると考えられます。

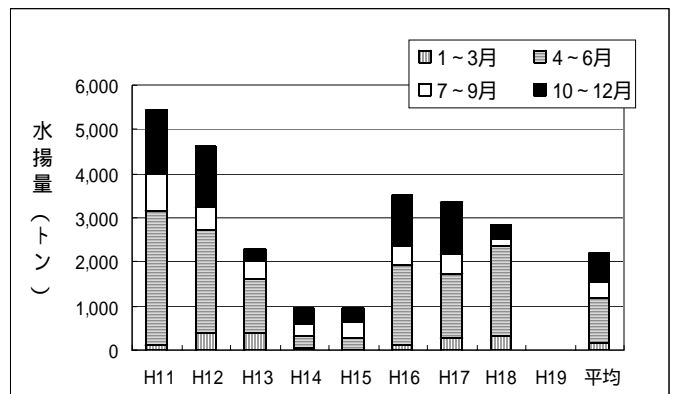
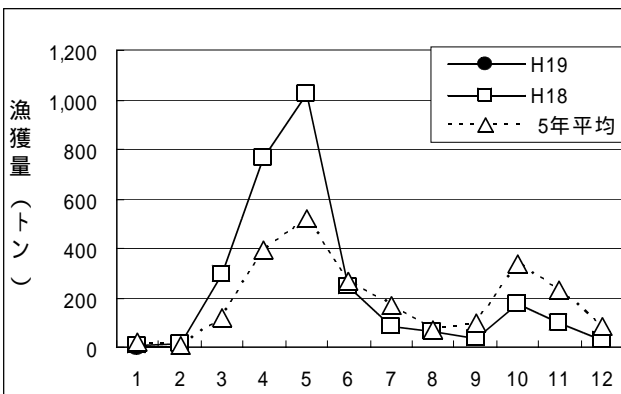


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

5年平均は平成14～18年の平均値、平成18年2月末までの水揚げ量を使用。

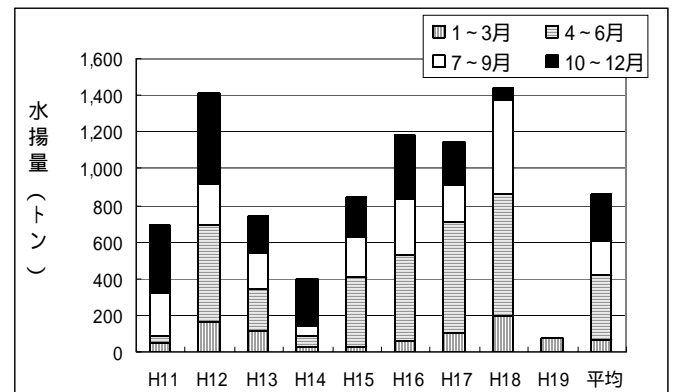
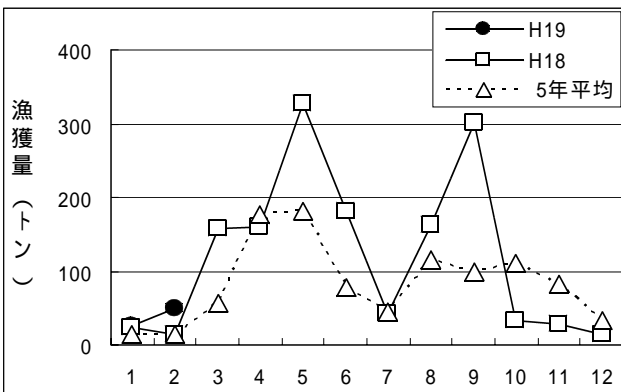


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

5年平均は平成14～18年の平均値、平成18年2月末までの水揚げ量を使用。